



## 2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年2月8日

上場会社名 株式会社パーカーコーポレーション 上場取引所 東  
 コード番号 9845 URL https://www.parkercorp.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 里見 嘉重  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員業務本部長 (氏名) 橋本 一徳 TEL 03-5644-0600  
 四半期報告書提出予定日 2021年2月12日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期第3四半期の連結業績（2020年4月1日～2020年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	31,195	△16.5	1,570	△40.3	1,652	△40.3	1,542	△15.2
2020年3月期第3四半期	37,347	△4.8	2,630	△16.4	2,767	△18.2	1,818	△19.9

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 875百万円 (△29.9%) 2020年3月期第3四半期 1,248百万円 (28.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	60.27	—
2020年3月期第3四半期	70.74	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	51,472	33,243	59.5
2020年3月期	51,246	32,787	59.0

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 30,640百万円 2020年3月期 30,232百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	6.50	—	6.50	13.00
2021年3月期	—	3.00	—	—	—
2021年3月期（予想）	—	—	—	6.00	9.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2021年3月期の連結業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	43,000	△15.3	2,300	△32.8	2,400	△33.0	1,850	△26.4	72.67

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

詳細につきましては、本日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期3Q	26,801,452株	2020年3月期	26,801,452株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	1,344,271株	2020年3月期	1,116,143株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期3Q	25,600,002株	2020年3月期3Q	25,713,127株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	8
(追加情報) .....	8
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、国内外の需要の低迷や世界各国の工場停止等を背景に急激に落ち込みました。緊急事態宣言解除後の経済活動再開を受けて緩やかに持ち直しつつありますが、新型コロナウイルス感染症による経済への影響は長期化しており、厳しい状況が続いております。世界経済におきましても米国においては、個人消費や輸出の増加に後押しされ、景気の回復が進んだものの、新型コロナウイルス感染者の再拡大が深刻化しております。中国においては、内需や輸出を中心に経済は新型コロナウイルス感染症拡大以前の水準まで回復しましたが、世界全体として新型コロナウイルス感染症が依然として収束してなく、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況のもと当社グループは、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けて、従業員の感染予防対策に努めると共に、時差出社や在宅勤務の導入、出張や会合の自粛、職場における「三密」の回避などの対策を講じながら、コロナ禍においても事業活動を維持すべく、制限された状況下で営業活動を行ってまいりました。

またこれらの変化や需要を的確に捉え、将来を見据えた幅広い視野を持ち、高い付加価値が込められた製品を提案すること、そのような付加価値を創出する「コト作り」に注力した製品開発に繋げ、更に高いレベルでの技術サービスの提供とグローバル化を推進し、持続的な成長と顧客の信頼を獲得するよう努めてまいりましたが、当社グループの主力の取引先である自動車業界や電気・電子部品業界におきましても新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けました。年度の前半に大きく落ち込んだ自動車業界向けの各事業については、改善の兆しも見られたものの、前第3四半期連結累計期間には及びませんでした。

この結果、当社グループの第3四半期の連結業績は、売上高は31,195百万円（前年同期比16.5%減）、営業利益は1,570百万円（同40.3%減）、経常利益は1,652百万円（同40.3%減）、投資有価証券売却益1,097百万円を計上したことにより親会社株主に帰属する四半期純利益は1,542百万円（同15.2%減）となりました。

セグメントごとの経営成績につきましては、次のとおりであります。

## ・機械部門

主力の国内外向け自動車業界向け設備及び製粉機械の販売は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う海外のロックダウンの影響による設備検収の遅延等により、減収減益となりました。

当部門の売上高は、2,018百万円（同10.6%減）、営業利益は89百万円（同34.5%減）となりました。

## ・化成品部門

自動車業界向けの製造販売は、新型コロナ感染症の影響による国内における自動車生産台数の減少により、第3四半期連結会計期間（2020年10月から12月）では回復傾向が見られたものの、減収減益となりました。

当部門の売上高は10,758百万円（同12.4%減）、営業利益は700百万円（同13.0%減）となりました。

## ・化学品部門

国内外市場向けの一般工業用ケミカル及び特殊ケミカルの製造販売並びに輸出関連の販売は、コロナ禍による工場の操業停止の影響によるケミカルの使用量の減少がありました。また輸出用ケミカル及び研磨剤の販売減少と前年同期にありました大型設備の受注がなかったことにより減収減益となりました。

当部門の売上高は3,714百万円（同26.0%減）、営業利益は42百万円（同83.4%減）となりました。

## ・産業用素材部門

自動車用防音材は、新型コロナウイルスの影響による主要自動車メーカーの工場操業停止や新車立上の遅れにより減収となりました。家電用防音材の製造販売は新興国において外出自粛や移動制限による経済活動の停滞から減収となりました。

当部門の売上高は10,056百万円（同21.4%減）、営業利益は234百万円（同73.1%減）となりました。

・化工品部門

国内外の電子産業用ファインケミカルの製造販売は「5G」「テレワーク」関連需要の高まりを背景に好調に推移しました。一方国内カーケアケミカルは、Go Toキャンペーンによる消費マインドの好転で持ち直し傾向ではあるものの依然低水準で推移しております。

当部門の売上高は3,373百万円(同4.7%増)、営業利益は406百万円(同0.6%増)となりました。

・その他部門

中国とロシア貿易の輸出入は営業活動が再開されましたが、前期における不動産事業の売却により減収減益となりました。

当部門の売上高は1,272百万円(同27.8%減)、営業利益は96百万円(同39.6%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産合計は、前連結会計年度末と比べ225百万円増加し、51,472百万円となりました。主な要因は、受取手形及び売掛金の減少(734百万円)、商品及び製品の減少(497百万円)、原材料及び貯蔵品の減少(113百万円)、売却による投資有価証券の減少(711百万円)がありましたが、現金及び預金の増加(2,387百万円)があったことによるものです。

負債合計は前連結会計年度末と比べ229百万円減少し、18,229百万円となりました。主な要因は、流動及び固定のリース債務の増加(424百万円)、未払法人税等の増加(202百万円)がありましたが、1年内返済予定の長期借入金及び長期借入金の減少(552百万円)、賞与引当金の減少(325百万円)があったことによるものです。

純資産合計は前連結会計年度末と比べ455百万円増加し、33,243百万円となりました。主な要因は、その他有価証券評価差額金の減少(463百万円)、為替換算調整勘定の減少(270百万円)がありましたが、利益剰余金の増加(1,245百万円)があったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の収束が依然として見通せない状況ではありますが、5月の緊急事態宣言解除後は、国内におきましては自動車産業向けや電子産業向けの事業では緩やかに改善の兆しも見られ、また中国においては、新型コロナウイルス感染症拡大以前の水準まで回復しました。

2020年11月30日に公表した通り、投資有価証券売却益の計上により親会社株主に帰属する当期純利益が増加することから、2020年8月3日に公表いたしました2020年3月期通期連結業績予想を修正しております。

今後におきましても、経済環境や市場動向を注視し、業績予想の適切な開示に努めてまいります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	12,061	14,448
受取手形及び売掛金	11,743	11,009
商品及び製品	3,191	2,694
仕掛品	365	392
原材料及び貯蔵品	1,423	1,309
その他	1,033	1,193
貸倒引当金	△8	△11
流動資産合計	29,811	31,036
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	8,864	8,977
減価償却累計額	△5,374	△5,540
建物及び構築物(純額)	3,490	3,437
機械装置及び運搬具	7,884	7,754
減価償却累計額	△5,865	△5,930
機械装置及び運搬具(純額)	2,019	1,824
土地	6,236	6,118
リース資産	561	929
減価償却累計額	△317	△302
リース資産(純額)	243	626
建設仮勘定	1,022	365
その他	3,723	3,590
減価償却累計額	△3,123	△3,009
その他(純額)	600	580
有形固定資産合計	13,613	12,953
無形固定資産		
借地権	115	112
その他	436	369
無形固定資産合計	552	482
投資その他の資産		
投資有価証券	5,219	4,508
長期貸付金	412	398
繰延税金資産	243	246
その他	1,481	1,936
貸倒引当金	△88	△88
投資その他の資産合計	7,269	7,001
固定資産合計	21,435	20,436
資産合計	51,246	51,472

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,350	7,513
短期借入金	2,326	2,300
1年内返済予定の長期借入金	909	457
リース債務	137	206
未払法人税等	451	653
賞与引当金	743	417
その他	1,802	1,739
流動負債合計	13,721	13,289
固定負債		
長期借入金	1,538	1,438
リース債務	126	481
繰延税金負債	1,216	1,131
役員退職慰労引当金	126	121
退職給付に係る負債	1,656	1,693
資産除去債務	16	17
その他	56	55
固定負債合計	4,737	4,940
負債合計	18,459	18,229
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,201	2,201
資本剰余金	2,477	2,477
利益剰余金	23,272	24,517
自己株式	△318	△423
株主資本合計	27,632	28,773
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,663	2,199
繰延ヘッジ損益	0	0
為替換算調整勘定	△62	△332
退職給付に係る調整累計額	△0	△0
その他の包括利益累計額合計	2,600	1,867
非支配株主持分	2,554	2,602
純資産合計	32,787	33,243
負債純資産合計	51,246	51,472

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	37,347	31,195
売上原価	27,925	23,434
売上総利益	9,422	7,760
販売費及び一般管理費	6,791	6,190
営業利益	2,630	1,570
営業外収益		
受取利息	32	36
受取配当金	88	82
持分法による投資利益	72	10
貸倒引当金戻入額	0	—
助成金収入	—	78
その他	73	74
営業外収益合計	267	282
営業外費用		
支払利息	28	21
為替差損	82	136
その他	19	42
営業外費用合計	130	200
経常利益	2,767	1,652
特別利益		
固定資産売却益	9	14
投資有価証券売却益	—	1,097
特別利益合計	9	1,111
特別損失		
固定資産売却損	1	0
固定資産除却損	32	4
投資有価証券評価損	—	13
減損損失	—	174
特別損失合計	33	192
税金等調整前四半期純利益	2,742	2,571
法人税、住民税及び事業税	685	856
法人税等調整額	△5	△1
法人税等合計	680	854
四半期純利益	2,062	1,717
非支配株主に帰属する四半期純利益	243	174
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,818	1,542



(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	2,062	1,717
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△246	△436
繰延ヘッジ損益	1	0
為替換算調整勘定	△403	△377
退職給付に係る調整額	△0	0
持分法適用会社に対する持分相当額	△164	△28
その他の包括利益合計	△813	△841
四半期包括利益	1,248	875
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,028	809
非支配株主に係る四半期包括利益	220	65

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、一部の連結子会社を除き、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、税引前四半期純利益に一時差異等に該当しない重要な差異を加減した上で、法定実効税率を乗じて計算しています。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症(以下、本感染症)の影響に関して、当社グループは従業員の感染予防対策を実施した上で事業活動を継続しております。

当第3四半期連結累計期間においても本感染症の影響を業績に大きく受けております。2020年4月に発令された緊急事態宣言解除後は、国内におきましては自動車産業向けや電子産業向けの事業では緩やかに改善の兆しも見られ、また中国においては、新型コロナウイルス感染症拡大以前の水準まで回復しましたが、2021年1月に再度緊急事態宣言が発令されたように今後も社会・経済に影響を及ぼすことが予想されます。当該状況による影響は当連結会計年度以後においても一定期間にわたり継続すると仮定しておりますが、生産活動再開により徐々に状況は回復すると想定しております。繰延税金資産の回収可能性や固定資産の減損の判定等の会計上の見積りにつきましてはこの想定に基づき行っております。

なお、2020年3月末に実施した見積りから重要な変更は行っておりません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 2
	機械部門	化成品 部門	化学品 部門	産業用 素材部門	化工品 部門	計				
売上高										
外部顧客への売上高	2,257	12,286	5,023	12,798	3,220	35,586	1,761	37,347	—	37,347
セグメント間の内部売上高 又は振替高	17	110	78	5	1	213	652	865	△865	—
計	2,274	12,396	5,101	12,803	3,222	35,800	2,413	38,213	△865	37,347
セグメント利益	136	805	253	870	404	2,471	159	2,630	—	2,630

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、石油関連商品・不動産賃貸を含んでおります。

2 報告セグメントの利益と四半期連結損益計算書の営業利益との差額は、「その他」の区分の利益であります。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 2
	機械部門	化成品 部門	化学品 部門	産業用 素材部門	化工品 部門	計				
売上高										
外部顧客への売上高	2,018	10,758	3,714	10,056	3,373	29,922	1,272	31,195	—	31,195
セグメント間の内部売上高 又は振替高	6	112	35	4	0	158	519	678	△678	—
計	2,024	10,871	3,750	10,061	3,374	30,081	1,792	31,874	△678	31,195
セグメント利益	89	700	42	234	406	1,473	96	1,570	—	1,570

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、石油関連商品を含んでおります。

2 報告セグメントの利益と四半期連結損益計算書の営業利益との差額は、「その他」の区分の利益であります。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他	合計
	機械部門	化成品 部門	化学品 部門	産業用 素材部門	化工品 部門	計		
減損損失	—	—	31	142	—	174	—	174